

デンタルサポートサービス会社は クラウドセキュリティを優先

McAfee® MVISION Cloud は急速な拡大、デジタルトランスフォーメーション、コンプライアンスをサポートします。



Pacific Dental Services

カスタマープロフィール

米国内の歯科医の管理業務を軽減

業界 医療

IT 環境

22 の州に 750 か所を超えるオフィス、オンプレミスのデータセンターからクラウドに移行した大量の個人医療情報 (PHI) および個人識別情報 (PII)

従業員

世界中に 11,000 人を超える従業員および 10,000 のチームメンバー

Pacific Dental Services (PDS) は Stephen Thorne 氏によって 1994 年に設立され、カリフォルニア州コスタメサで最初のオフィスを支援しました。米国で最高の歯科会社となるというビジョンに沿って、PDS は 22 の州にある 750 を超えるオフィスに支援を提供するまでに拡大し、現在も成長路線をたどっています。今後はさらに毎年 100 か所を超えるオフィスの拡大が期待されています。

McAfeeにアクセス



ケーススタディ

AWS によりクラウドを大規模に拡張

2018年2月、PDSのエグゼクティブチームは旧式の電子医療記録(EMR)からソフトウェアプロバイダーのリーダーであるEpicが提供する新しいシステムへの移行を決定しました。この取り組みによりクラウドを中心としたIT全体の改革が開始されました。

PDSの上席ITセキュリティアナリストであるMaka Guerrero氏は次のように述べています。「当社データセンターの移行を開始した際、ラックスペースを増やすだけでは当社のビジネスに合わせて拡張することができないことがすぐに分かりました。当社のレガシーアプリケーションはセキュリティの点から見ると当社基準を満たすことができないことが見込まれました」。

ビジネスが急成長するなか、PDSのITチームはビジネスのペースに合わせてデータセンターを拡張する必要があると認識していました。そこでクラウドによって得られる効率と速度を追求することを決定しました。同社はAmazon Web Services(AWS)を活用して、急速な拡大に対応する戦略に沿ったデータセットを保存することから始めました。PDSのGuerrero氏とセキュリティチームは、AWSの責任共有モデルで示されるベストプラクティスに従って、AWS環境に追加のセキュリティコントロールを適用し、機密データを危険にさらす可能性がある設定ミスを防ぐ必要性を認識していました。

Guerrero氏は次のように述べています。「Epicに移行する際にデータを完全に管理できるようにする必要がありました。AWSではクラウドに何が保存されていても関係ありません。社会保障番号であろうと、基本的なデータセットであろうと同じです。私たちは、

データを管理しながら、同時に当社のお客様や医師に場所や時間を選ばずに情報へアクセスすることを可能にする追加のツールを必要としていました」。

また、750か所を超える歯科医院からのいずれも機密情報である個人医療情報(PHI)や個人識別番号(PII)をクラウドに移行するにあたり、米国における医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律(HIPAA)や医療情報トラストアライアンス(HITRUST)といった業界の規制遵守の問題にも直面していました。クラウドへの移行を継続する際に、セキュリティの管理とパラメーターを追加で導入する必要があることを認識していました。このような点を考慮し、チームはCASB(Cloud Access Security Broker)の選定プロセスを進めて、データに対するコンテキストアクセスコントロールと特権アクセスコントロールを提供できるようにすることを決定しました。

PDSのチームがCASBプロバイダーとしてMcAfee MVISION Cloudを選択した理由は、同社が使用しているクラウドサービスへのシームレスなアプリケーションプログラミングインターフェイス(API)の統合と、既存のオンプレミスのセキュリティをクラウド上のデータに拡張できることでした。

Guerrero氏は次のように述べています。「MVISION Cloudは、市場のどのCASBに比べてもその場で柔軟に対応することができます。McAfeeがクラウドを保護する際に採るアプローチはAWSのような当社の他のパートナーのアプローチや方向性と実によく合致しており、当社のビジネス目標にも適合しています」。

課題

- 急成長するビジネスに合わせて技術スタックを拡張する必要があった。
- 大量の機密データをクラウドに移行すると同時にHIPAAやHITRUSTのような厳格な業界標準に対応しなければならなかった。
- 750か所を超えるオフィスで働くオーナードクターは、Epic移行を通じて、制約なく、いつでもどのデバイスからでも患者の記録へアクセスできることが求められていた。

McAfeeのソリューション

- MVISION Cloud for AWS
- MVISION Cloud for Box
- MVISION Cloud for Custom Apps
- MVISION Cloud for Office 365
- MVISION Cloud for Salesforce
- MVISION Cloud for Shadow IT

ケーススタディ

ユーザー行動分析を活用して機密データを保護

PDS のクラウド上にあるすべての機密データの約90% は Software-as-a-Service(SaaS) アプリケーション または Infrastructure-as-a-Service (IaaS) アプリケーションに保存されており、脅威がどこにあるのかを明確に把握する必要がありました。このため、Guerrero 氏と PDS セキュリティチームは MVISION Cloud のマシン駆動型ユーザーエンティティと行動分析 (UEBA) 機能を活用しました。これにより、環境内で日常的に発生する大量のクラウドイベントを瞬時に分析し、ユーザー行動の基準を確立する情報を獲得できるようになります。

Guerrero 氏は次のように述べています。「マーケティングチームや HR チームの行動やアクセス対象は、保険請求を処理する当社のヘルスケア収益ビジネスオペレーションセンターのものとは大きく異なります。MVISION Cloud のユーザー行動分析は、ユーザータイプやビジネスライン別に行動を処理する必要があるデータを提供してくれるため、不要な情報を除去することができます」。

この詳細なインサイトによって、PDS チームは大量データのアップロードやダウンロードといったインサイダー脅威を示唆する可能性のある異常な活動を識別したり、さまざまなクラウドサービスで複数の地域にまたがってアクセスを試みるなど、アカウントの侵入を示唆する可能性のある活動を検出したりできるようになります。このタイプの活動は「スーパーヒューマン型」アノマリとして広く知られ、複数の地域にわたってデータアクセスを試みる行為者を意味しますが、こうした試みは短時間のうちに行うことはできません。

Guerrero 氏は「スーパーヒューマン型アノマリを検出して追跡できるかどうかは、セキュリティ上重要なユースケースです。McAfee は完全な形でこれを実現しており、市場の他のどの CASB よりも高い有効性を示しています」と述べています。

さらに、チームごとに別のダッシュボードビューを備えるなど、PDS はアプリケーションオーナーや DevOps チーム向けにカスタマイズされた機能セットを提供することで、ビジネスインテグレーションのアプローチにも MVISION Cloud を使用しています。これによって、アカウントと地域全体からリソースをすばやく細分化し、実用的で適切な情報を提供できるようになります。

SaaS アプリケーション、Microsoft Office 365 および Box で DLP をクラウドに拡張

Guerrero 氏とチームはプラットフォームアプローチを採用して、会社全体の機密データを保護しています。MVISION Cloud を使うことで、既存のオンプレミスデータ損失防止 (DLP) ポリシーを AWS S3 バケットのデータおよび Office 365 や Box のような認定済み SaaS アプリケーションに拡張し、一連の標準化されたコンテキスト・アクセス・コントロールを適用することができます。

Guerrero 氏は次のように述べています。「PDS にとって重要なのは、Office 365 や Box のようなクラウドベースのアプリケーションをお客様に提供し、適切なセキュリティパラメータを設定してデータを正常に保護できるようにすることです。PDS に認可された、顧客向けツールが導入されることで、オーナー医師がビジネスパートナーと安全に共有・協力できるようになることが当社事業にとって不可欠です」。

結果

- コンテキスト・アクセス・コントロールにより、迅速かつセキュアにクラウドに移行でき、その一方で規制遵守を満たすことができました。
- DevOps と情報セキュリティの両チームは、インサイダー脅威と悪意ある行為者についての実用的な情報をリアルタイムで獲得するという要求が満たされました。
- API をシームレスに統合することで、セキュリティとオーナードクターの間の摩擦を削減し、承認されたクラウドサービスの導入を増やし、全体的なリスクを最小化しました。

ケーススタディ

MVISION Cloud のおかげで、セキュリティチームは、ユーザーのタイプ、デバイス、位置情報に基づいて、リアルタイムで機密データが SharePoint や OneDrive のような非承認のクラウドサービスから離れるのを防ぐために、粒度の高い、コンテキストに基づいたコラボレーションコントロールを実現しています。また、MVISION Cloud によって、誰が、何を、いつ、どこで行ったのかを確認できるツールも提供します。これによってセキュリティと DevOps の両チームは環境内で行われる 1600 件を超えるアクティビティをリアルタイムで監視できます。この追加情報によって Guerrero 氏と PDS チームはジャストインタイムのコーチングメソッドを使用して、ユーザー行動の変化を促すことができます。

Guerrero 氏は次のように述べています。「私達は、患者の皆様から給料をいただいていると考えています。私たちの文化では、家族のように協力し合うことを率先して行っていますが、時として患者の皆様に対して、『私たちはこれが機密データだと思いますが、そう思いませんか』と伝えられるように物事に特別の注意を向けています」。

このようなアプローチによって、ユーザーは PDS が導入する追加のセキュリティ対策を受け入れるようになり、全体的なリスク意識が高まります。

Guerrero 氏は「MVISION Cloud がもたらす情報のおかげで、リスクを特定し、そのリスクを受け入れるかどうかを判断するための情報を企業に伝えることができます。私たちは全体的なリスク意識を高めることができている」と述べています。

2021 年までにクラウドファーストの企業に

さらに Guerrero 氏は述べています。「詰まるところ PDS は歯科業に専念する歯科医向けのプラットフォームであり、土台なので、歯学部を卒業しても、ビジネスの副専攻が得られるわけではありません。私たちは歯科医が仕事に集中できるようにし、あとのことは私たちがサポートします」。

オーナードクターを第一に考えた一連のコア・バリューにより、PDS はクラウド・ファーストの企業への道を歩んでいます。

「セキュリティについては十分に成熟した考え方を持っており 2020 年までにディザスタ・リカバリ・プランを改定・進化させて 80/20 を実現したいと思っています」。Guerrero 氏は、クラウドに 80% のアプリケーション、オンプレミスに残りの 20% を配置する技術スタックを引用してこのように述べています。

セキュリティ上の優先事項およびパートナーやオーナードクターとの信頼関係の基礎が確立されていることで、Guerrero 氏は組織の将来に明るい展望を見出しています。

「私たちにはそれを実現する技術的知識があり、2021 年は想像を超えるような年になるでしょう」。

「MVISION Cloud は、市場のどの CASB に比べてもその場で柔軟に対応することができます。McAfee がクラウドを保護するアプローチは AWS のような当社の他のパートナーのアプローチや方向性と実によく合致しており、当社のビジネス目標にも適合しています」

Pacific Dental Services 上席 IT セキュリティアナリスト、Maka Guerrero 氏



マカフィー株式会社 www.mcafee.com/jp
東京本社 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-12-1 渋谷マークシティウエスト 20F
西日本支店 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島 2-2-2 近鉄堂島ビル 18F

TEL : 03-5428-1100 (代) FAX : 03-5428-1480
TEL : 06-6344-1511 (代) FAX : 06-6344-1517

本資料は弊社の顧客に対する情報提供を目的としています。本資料の内容は予告なしに変更される場合があります。本資料は「現状のまま」提供するものであり、特定の状況あるいは環境に対する正確性および適合性を保証するものではありません。McAfee および McAfee のロゴは米国法人 McAfee, LLC またはその関係会社の登録商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。Copyright © 2019 McAfee, LLC. 4330_0819 2019年8月